九州大学学術情報リポジトリ Kyushu University Institutional Repository

[41]文學研究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/2339120

出版情報:文學研究. 41, 1951-03-10. The Kyushu Literary Society

バージョン: 権利関係:



杉浦正一郎助教授 前北海道大学杉浦正一郎助教授は昭和二十五年十月三十一日

となつた。

付を以て本学文学部助教授となられ国文学を講ぜられること

九州文学会談話会

ボ

ヮ

'n

の諷刺詩について

於小会議

室

敎

授

Ruskin と Morris (演習2)

昭和二十六年二月三日

昭和二十五年度第二学期

九州大学文学部文学関係講義題目

(至昭和二十六年 三 月)

國文學·國語學

「世間胸算用」(演習) · 特

国

女

語(演習

福 田

デ

イドロ

「ルリジ

__]

ズ」(講説)

習

杉 浦 助 敎 授

パスカル

「パンセ」(演習

敎 授

> 儒 唐 万葉集 代文学 林 卷十四(演習) 中 史 國

文

史 (演習)

目

加

田

敎

授

英文學・英語學

Shakespeare: Othello (演習1) 文文学 槪 論

中

Щ

敎

授

英

R.Browning's Poems (演習の) 英国十九世紀英文学史

前

Щ

助

敎

授

Hazlitt. Selections from Halitt's

Essays (演習4)

英

女

大

講

師

文

ャルル・ヴィルドラック「ル・パックボー (講説

3/

シーヌ研究

・テナシテイト

授

佐 永 田

助

授

師

三五

玉

語

学

槪

黨

報

独語 初歩(ゴーチェ短編集)	仏語 G. Sand la mare an diable		外屬語	ラテン語初歩ギリシャ 語	ギリシャ語初歩 (White First Greek Boo)	言語学概論	Das Katchen von Heilbronn	ハインリッヒクライスト(演習) 独 女 学 演 習	独文学	独文学講読	音 獨
栗原講師	永田助教授 商 節 節	可 川 助 養 教		デロリエ講師) 長 沢 教 授	吉町助教授	e e e e	秋山 "	国 松 教 授	ル 計 日	高裔助教受
本会名誉会長春日政治先生には、この度学士院会員となられ 於 三 ―― 袰 ―― 覇	念祝賀會(十二月十日)	一、西行の自然感情 一、詞性と辞性について 黒	ー、「らむ」「らし」について 秋	一、義太夫女学の家庭相一、堤中納言物語の写実性大	一、謠曲「羽衣」の構成 一、謠曲「羽衣」の構成 村切究題目及ひ発表者	國文學會例會(二十五年十二月十日)	昭和二十五年度後半期	九大国文学会	中国語初步(華語基礎觀本)	国	露語 初 步 吉
会員となられ		駒	山山正次	田原正一喜輝	田正志				#	山灩師	" 助教授

数集つてお祝ひし、盛会であつた。 たので、記念の祝賀会が催され、先生のお教を受けた者が多

杉浦助教授歡迎會(十二月十二日)

於三

畏

閣

卒業論文發表會(二十六年二月四日)

研究題目及び発表者 於第 七

演

7

岩

正岡子規の俳論とその俳句 方丈記の一考察

葛西

善 藏論

特別研究発表題目及び発表者

所謂「金葉和歌集初度本」の伝来と性質とについて 石

凊 田 Œ 喜

一(二月四日 於三

畏

閣

奥の細道尾花沢四句考

7

鏠

国

語

学

会

第四回公開講演會(二十五年十一月二十五日

於 法文第八番教室

> 注音符号について 言語心理学的一研究

> > 加

田 義 治

誠

重

万葉集及び古今・新古今の恋歌を素材としての

春日博士學士院會員記念祝賀會(十一月二十五日)

時枝博士歡迎會(二十六年一月十二日)

於翠

於工

学

食

第五回公開講演會及び座談會

縣立福岡高校講堂

婯

子

郞

講演題目及び講演者

国語学と国語教育

畤 枝

誠

記

H 国 語

文学会

十三日(土)午前十時より九州大学文学部に於て開催された。 西日本中国語文学会創立総会及び第一回研究発表会が、一月

して九州大学目加田教授を推すことなどが決定された。 の研究を中心として年二回の大会開催、会誌の発行、代表者と 席上会の運営に対する種々の協議がなされたが、特に中国語学

なほ当日席上左の如き研究発表がなされた。 現代標準語の名詞について

報

S

講演題目及び講演者

二三七

JL 州大学

那

須

活

	: :
	,

中国新劇発展途上に於ける旧劇の抵抗について

九州大学

日本英文学会第三回九州大会

及び、三十氏の多彩な研究発表が行われ、終始活潑な質疑応答 り、九大第一分校に於て開催された。大会参加者は遠く関東に が交わされた。本大会の次第は次の通り。 昭和二十五年十月二十八日(土)、二十九日(日)の両日に亘

0 辞 日本英文学会評議員 中 山竹二

郞

第一日(第一会場) 研 究 表

第二日 (第一会場)

1、The Irish Melodies; 一つの覚書 福岡学芸大学

迪

夫

2、ブラウニングの詩作に於ける根本的態度 甲陽学院高校 谷

Œ

ຕ໌ Virginia Woolf ⊗ Imageries 西南学院大学 石 井 康

敍事詩「ベオーウルフ」に於ける異教思想と キリスト思想 シンクレア・ルイスの近作 熊本短期大学 神戶経済大学 荻野 辰 宮、 目 博 道 栄

15

衛

6

ジエィン・オースティンに就いて

7、精神分析学と文学 マーク・トウエィンの厭世思想 短期 対 対 学 院 千葉大学 山口大学 小 Щ

武

博 雄

春

10、英語散文文体 "Lucy Poems"より "Vaudracour and Julia" に至る Wordsworth の恋愛詩 熊本大学 田崎篤次郎 広島大学 東田 于

秋

松

光

12. On Reciting English Poetry 11、Teufelsdröckh の回心 九大第二分校 田 # : 大 作

千葉大学

吉

松

勉

13、"The End of Chapter" に就いて 山口大学 小西邦 太郎

14、J・M・シングの劇に於ける悲劇性 Edward II and Richard II 福岡女子大学 中 島 源 治

熊本大学

和

田

勇

午后の部

6' J. Galsworthy as a Playwright

17、Laurence Sterne について 島根大学 吉 岡

寅

一之助

九大第三分校

岡

栄

28

Sir Thomas More as a Humanist

人名米大学 隬 永 勝

太

北九州外国語大学 山 內 隆 治「ハムレット」と虞美人草

30

19

18

Shakespeare の喜劇的手法 坂 本 重 武

閉

会

0

20

第二会場)

21

Shakespeareの言語に用いられた"Shall"について 英語構造型の研究 西南女学院 加 藤 義 動詞"put"の研究 大淀高校 島 田 平

Ż

23 22

| Khyme-word を中心とする Chaucer の統語法 小倉外專 池 辺 義 男

The Genius of the Japanese Language, compared with English 神戸商大 三 戶 雄 一

25

24

午后の部

Caxton の英語。
 九大第三分校

長沢

由

次郎

Some Peculiarities of American English

爾清

九大第一分校

井

坂

Shakespeare, peeped at from the back-door

九州工業大学

待鳥又

喜

九大教養部教授 後 藤 武 士九大第一分校 茗 荷 幸 也

く事になつた。中山教授を推し、事務所を九大文学部西洋文学研究室内に置向本大会に於て日本英文学会九州支部が結成され、支部長に

G・S・フレーザー氏特別講演

一月十六日—二十日)

女学の特別講義を行つた。英本国に於て少肚中堅の詩人、批評節、G・S・フレーザー氏はかねてから折衝中の中山敎授の招節、G・S・フレーザー氏はかねてから折衝中の中山敎授の招が、日本・フランデン氏の後任として来朝した英国文化使

家として活躍していた氏が熱情とめて論ずる現代英文学は清新

三九

の気に溢れ、聽講者に多大の示唆と感銘を与えた。

氏の講義題目は次の通り。

Modern English Poetry

[] English Novels and Poems as a Record of Social Change

催の予定。

||| T.S. Eliol; Introductory Lecture

尚二十日午后一時より十一番教室に於て、 Lite and Literature in England To-day と題する公 開講演が行われた。

O 佛文學臨時講義

京大桑原武夫教授は、「ルソー研究」の題目の下に、九月二

桑原教授歡迎會(九月二十九日)

十五日より二十九日まで臨時講義をされた。

田、佐藤、石、城野の諸先生、及び全事攻学生参会、同教授を 講義終了後 三畏閣に於て 歓迎会を開く。 進藤教授 はじめ永

日本 フランス文學會秋季総會(十一月二十五日)

囲んで賑やかな歓談の一夕を過した。

学よりの参加の下に盛大に挙行された。 日本フランス文学会秋季総会は京都日仏学館に於て全国各大 本学よりは 進藤教授

はじめ永田、石、城野の諸先生及び弓削研究生が出席した。

国的な組織の確立が決議された。尙次回は五月頃東京に於て開 究発表会に引き続き総会、懇談会が開かれ、席上仏文学会の全

九州大学文学部文学関係

昭和二十六年三月卒業生論文題目

子規の俳論と其の俳句

西 善 藏 論

葛

一、方丈記についての一考察

ボーの詩観研究

長 沢 史

今

元

醎

==

Щ 要 郎

春

子

地 Œ 彦

野 粹

小 Щ

・ジィの

初期に於けるジョン。ゴールズウァー

ロバートブラァウニンの研究

戯典の研究

木 僆 悟

森 節

大 荒

オスカーワイルドその芸術論の発展

四大悲劇の劇的乃至は悲劇的

妻 正 奪

所

田

ついて

ウィリアムプレイクの「無心と経験の歌」に

性格に就いて シェクスピヤ・

信 成

Λ. 経 民 国 語 間 涾 ゲーテの方法に就いて ボードレール研究 詩人としてのD・G・ロゼッティ ヂェイン・オーステンの芸術の世界 ワァヅワァスに就いて ハムレット トーマス・マンの「魔の山」について モリエール研究 ヘンリー・ウァズワス・ロングフェ 文 ニュー・イングランド文芸復興の一樣相 月 伝 受 国 論 文 報(大阪銀行調査部) 承(民間伝承の会) 贈 (京都大学国文学会) (同志社大学人文学会) 雜 誌 П 1 空 吉 岡 福 永 幯 元 醧 田 井 村 田 島 中 田 田 崎 直 義 脩 卓 国 計 輝 治 隆 次 観 华 男 国 立 心 国 日 商 舵 人 Щ 收 文 人 読 天 說 天 哲 內 本 形 理 文 命 理 出 文 文 大 書 橋 文 畵 大 大 学 版 学 館 0 学 学 学 物 論 論 通 研 春 論 研 研 文 研 論 紀 学 Ħ 学(立命館研究所) 錄 究(国学院大学国文学会) 輪 究(早稻田大学国文学会) 究(北大学芸大学凾館人文学会) 要(山形大学人文科学会) 鞍(国立国会図書館) 化(東北大学文学会). 究(大阪市立大学文学会) 秋 究(日本心理学会) **叢**(一橋論叢編輯所 報(天理大学人文学会) 究 集(神戸商科大学) 林(立命館文学会) Щ (国立国会図書館) (国立国会図書館) (京都 (天の川 (天の 哲学会) Щ 会 会

大山正雄文学科学概説(一) 選合への目覚め(三六) 選のの目覚め(三六) ドイツからの脱出	八訓語三 五語藏符 〇彙御記 年小本統 和放央表	春日政治 におり、ことでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、この	奈良朝時代東国方言の成立について (上)(中)(下)福田良輔	独逸的なるもの(三三) 千代正一郎	弧内は 輯号を示す。)	(年) (1) (2) (3) (4)
会(一) クリラの(領事話(一) イスト随想(二八) イスト随想(二八) ・三二) ・一男のと(三一)・三二) ・ 一男のと(三一) ・ 三二) もまたアルカディアに(三一) ・ 三二) もまたアルカディアに(三一) ・ 三二) もまたアルカディアに(三一) ・ 三二) ・ 一男の(領事話(一) ・ 三二)	ラライストの「公子ホンケブルク」のルデルリーンのエトナ劇断片(ニルデルリーンのエトナ劇が片(ニー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	髪と を を (三四) (三四) (三四) (三四) (三四) (三四) (三二) (三四) (三二)	古今集侈本に於ける選者名鳥羽院の御女学(二年)。日博士所蔵二十一代集中庭(日集・田の代集中庭)。	語石津本新古今和歌集に就い古今和歌集の選集態度と選集祗の晩年(二)	小	ニーチェについて(四〇)ゲーテの革命劇をめぐつて(三九)ゲーテの革命劇をめぐつて(三九)

文学研究筆者別索引	笠格朝 総及び芸に 戯贈境に	武龍教断伝詠い (に対してはいません) (に対してはいまたが、 に対してはいまたが、 に対してはいまたが、 に対してはいまたが、 に対してはいまたが、 に対してはいまたが、 に対してはいません。	寺樂では、 等天のいて、「三」 国以来中(三) 司選釈(一三) 日本語詩(謝恩(三三)	金聖英の水滸伝(三五)	を寄います。 イル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ワージワース「辺寛の走について」(上)(四〇)ワージワースに於ける自然観の進展(三八)ワージワースのソールズベリーティンターン旅行(三七)の、	土と文芸(三三) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	使徒瞥見(三五) 野上豊一郎	旅行報告書(一六) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「第二の羊飼の段」(試歌)- キリス宗教劇の世俗化(三九) エイクフイールド劇 ボーウその生活観(三七) エイクフィールド劇	リデイスの詩について(三五)サ・ガウエインと綠の騎士」についてョウサアの二面性(三三)	タベリ巡礼の世界(三) サアその生涯と性格(二) サアを原は「源氏措辞的」 サアと現代を持備(二) サアと現代英語(二) サアと現代英語(二三)	ギリス古劇の詩形につぎリス中世の宗敎劇(貧者の友」ウイリアム	人ル人。 「ゼーニ ルルルン ソブソニ	ノドン・ミュー(寺)におも)(三八十二)の哲学詩について(三三) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・

		4.7		
四の化一が一方の一次の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の	(老) は、	「田宮長の国語研究(二九) 「田宮長の国語研究(二九) 「田宮長の国語研究(二九)	二芸 すの	 小野島行忍 小野島行忍 小野島行忍 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
古利漂流邦訳考本的現実主義として 本に於けるシエ 本に於けるシエ	為と哲学(二〇) 場所をして、 地十年―私本位に書きつぶるととで 現の構造(一六) 現の構造(一六) 現の構造(一六)	牡丹芳(三三) 国見放(二七) 国見放(二七) あ高木市之助	ダム・ド・ロングヴィンスに於けるイタリチョンスを持ての喜劇(三五) まったの喜劇(三五) ロングヴィングヴィン	進

四四四

大壤施山紫九 日博島九一 王牟六 シ人日言言生俳日日故基本 エ及英語語活句本本坪督川イび語を起いとにと内教龍 鳴子朝 和都福人雲州へ本多津州物 口創多鹿 方一語仁齊方類 に 盛間時 上刊一 阋 言五動和彬言称 於 氏題代 ク作音通源文英於シ博聖之 青日日 島 四・詞加のの呼音 け 矢 **ののの 山** ス家のじの化詩けエ士書助 仏清展 ピと異て間のへるクの和とアし同見題反二英スーポー 葉本本 方 段一現用一特一 る 万言文学四書抄(元) 西国方言索引(元) H 集語文 典算望內 7 部 保証を 観(二) のてとる一映三文ピ英のド K. 女の国英英と一法ア文歴ガ 達 は 性シ民人語し 紹へ小史・ 三百 郋 **ン** 五. 鄉 観エ性祖史て 介一学へア へイへ先「の 三ク三の第英 六ス三生一語 三本 Ø 及六読ーラ 6用一段化趨勢ニ・五) 三・五) け(一) 意義 文学研 | 分布・ | 八二八 六 75 ١, 研 . ことで活部史 究 ポ 概緒 究提要」 7 0 オ 大観言 歷 $\widehat{\equiv}$ + 吏 0 時の一 (10 Ŧī. 代緒節 一〇) |論(三一六 一九

五五四三三二二十九七七六六六五四四三三三三二 年年年年年年年年年年年年年年年年年年年年年

+++++=+++++++++

字方本方刊 引言風言行 一指俗推日 日定備量本 暮·考·語 芥比一打文 草況願消典 一助日助へ 府動会動三 中詞話詞五 語活へ活~ **影用三用** (分七分 四布)布 〇相 相 (三八) 三六

学

研

究

発

行

年

覽

対九一九上 馬州日州海